公益財団法人ひょうごコミュニティ財団
10 周年記念フォーラム資料

活動報告（2020 年～2023 年）

【ひょうご・みんなで支え合い基金について】

ひょうご・みんなで支え合い基金は、2020 年に始まった新型コロナウイルスの感染拡大により困っている人たち ～とりわけ、子ども、女性、外国人、障がい者、高齢者、若者、就労困難者など～ への支援活動を支えるため、2020 年 5 月に公益財団法人ひょうごコミュニティ財団内に設立されました。

先が見通せない突然の非常事態に対応していくため、「オール兵庫」での広いネットワークを形成して迅速に基金を立上げ、運営についても県内の様々な分野で活動している方々からなる実行委員会で行ったことが大きな特徴です。

基金の目的は2点ありました。

1. 新型コロナウイルスによって「一層厳しい状況に追い込まれる人を支える市民活動」を資金面で支えること。
2. 支え合いの社会を作ってきた市民活動が、コロナ禍の状況でも、「コロナ後」の社会においても、さらに継続、発展していくようにその基盤を支えること。

その目的のために多くの市民、市民団体、企業の皆様から総額 12,156,082 円のご寄付をいただき、また、ひょうごコミュニティ財団内の他の基金からも 1,172,000 円の資金提供を受け、3 回の助成で総額 12,142,000 円を 68 団体へご支援することができました。

同時にこの活動を多くの皆様に知っていただき、助成事業を行うためのご寄付をお願いすることなどを目的としたイベントを、複数の企業や市民団体等のご協力で行いました。

2023 年の時点でコロナ禍は終焉したとは決して言えませんが、緊急支援としての役割は果たしたと考え、2023 年度をもって当基金は終了することとなりました。現在は、継続的な活動や事業を支える後継基金「新ひょうご・みんなで支え合い基金」をひょうごコミュニティ財団で進めています。

【ひょうご・みんなで支え合い基金 年表（概要）】

年	日付	
2019 年		2019 年末頃より、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行が発生
2020 年	4 月 19 日	国内感染者数が 1 万人を超える
	4 月	財団、兵庫県内の NPO、有識者等で、基金に関する意見交換
		財団理事会で基金設立を決定、基金の呼び掛けを開始
	5 月 30 日	イベント）キックオフ・イベント（基金の設立）
	7 月 25 日	イベント） Hello!! ニューノーマル
	9 月	第1回助成団体を決定（総額 467.2 万円、29 団体）、7 月募集〆切
	12 月 22 日	国内感染者数が 20 万人を超える
2021 年	1 月	兵庫県内で資金ニーズ調査を実施
	4 月	第2回助成団体を決定（総額 250 万円、13 団体）、2 月募集〆切
	9 月 2 日	日本での感染者数が 150 万人を超える
	11 月 9 日	クラウドファンディング　スタート
	11 月 20 日	イベント） もうあかんわ日記、パラリンピックと NPO
	12 月 25 日	クラウドファンディング　目標達成・終了（2,583,000 円、233 件）
2022 年	4 月	第3回助成団体を決定（総額 497 万円、26 団体）、2 月募集〆切
2023 年	2 月 25 日	イベント）地域社会での企業×NPO 連携企画
	3 月 31 日	第 3 回助成団体の助成事業が終了
	4 月	実行委員会で年度内での基金終了を決定
	5 月 8 日	新型コロナウイルス感染症の法律上の位置付けが、「5 類感染症」に変更
	10 月 15 日	イベント）最終報告フォーラム

「Hello!! ニューノーマル」 協賛：東京海上日動

「もうあかんわ日記、パラリンピックと NPO」

【3 年間の助成事業】

ひょうご･みんなで支え合い基金は、コロナ禍における緊急支援プログラムとして、たくさんの市民、市民団体、企業の皆さまに支えられて実施することのできた基金でした。2020 年から 2022 年の3年間に、個人や企業からのご寄付、はじめてのクラウドファンディングで 2,583,000 万円(233 件)をご支援いただくと同時に、財団内の複数の基金からも 1,172,000 円の資金提供を受けることができました。

基金はこの資金によって全 3 回、68 件、12,142,000 円の助成を行いました。助成プログラムは社会状況の変化に合わせ、毎回内容を変えて進めていきました。(各助成団体は QR コードからご覧ください)

◆第 1 期（29 団体、2020 年 3 月 1 日～2021 年 3 月 31 日の事業を対象）　計 4,672,000 円

【一般枠】による助成　/新たにご寄付を財源とした助成（14 団体）
【真如苑・ひょうご子ども応援基金】の資金による助成　（5 団体）
【輝け加古川みらい基金】の資金による助成　（5 団体）
【ASAHI・MITSUHASHI 基金】の資金による助成　（3 団体）
【有園博子基金】の資金による助成　（2 団体）

◆第 2 期（13 団体、2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日の事業を対象）　計 2,500,000 円

【活動支援コース】/コロナ禍の影響を受けた人々や地域を支援　（8 団体）
【持続支援コース】　/中小規模の団体向けに「存続そのもの」を支援（5 団体）
※2020 年 3 月までに頂いたご寄付を財源に助成

◆第 3 期（26 団体、2021 年度、2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日の事業を対象）　4,970,000 円

【新規事業】助成 /クラウドファンディングと一般寄付を財源とした助成
「遡及助成」（1 団体）、「遡及助成＋新規事業助成」（2 団体）、「新規事業助成」（18 団体）
※「新規助成」2022 年度活動を対象、「遡及助成」2021 年度にコロナ禍による事業中止等で運営が困難に陥った団体を対象
【アイクラフトひょうご若者応援基金】　/若者支援・若者による活動の支援　（4 団体）
※アイクラフト株式会社の資金提供による助成
【ASAHI-MITSUHASHI 基金】の資金による助成　　/子どもの医療関連の支援　（1 団体）

NPO 法人 One Heart

NPO 法人 DUAL RING

NPO 法人 播磨オレンジパートナー

ひょうごラテンコミュニティ

一般社団法人 すまいの未来研究機構

【基金終了にあたって（実行委員長挨拶）】

新型コロナウイルスは、多くの方々の生活に困難を与えました。特に、子ども、女性、外国人、障がい者、高齢者、若者、就労困難者など普段から困難を抱える方々は、より大きな影響を受けてしまいました。

ひょうご・みんなで支え合い基金は、そうした困難を抱える方々を支えるために設立された基金です。特に、そうした困難を抱える方々を支援している NPO やボランティア団体なども、経営状況が悪化し活動が難しくなってしまうのではないか、ということから、「支える人を支える」基金としてスタートしました。多くの皆様からのご寄付をいただき、これまで全 3 回の助成を実施することが出来ました。ありがとうございました。

この基金の特徴は、兵庫県内の多くのボランティア団体、NPO、企業などによる実行委員会形式で運営してきたという点です。ある特定の団体が寄付を集めるという形ではなく、兵庫県内の様々な団体がお互いに支え合う形で運営されてきました。

新型コロナウイルスの影響は徐々に弱まり、コロナ前の社会に戻りつつありますが、この基金を通じてお互いを支え合うネットワークが形成できたことは、必ず次の社会のために役にたつと考えています。

3 回の助成を通じて、多くの団体からの応募をいただきました。残念ながら資金の限界もあり、全ての団体に十分に助成できたわけではありませんが、貴重な活動へと役立てていただくことができたと考えています。

また、この助成を通じて、社会のあらゆるところで多くの NPO、ボランティア団体が人々の生活を支えているということを改めて感じました。社会の中には様々な歪みがあり、その歪みに落ち込んで困難を抱えている人が必ずいます。その困難に立ち向かう人たちの支えになるのがボランティア、NPO であり、社会にとってなくてはならない、生活のためのインフラであるとも言えます。本基金は、そうした社会インフラを支えていく基金であったと言えるでしょう。

本基金は、コロナ禍で困難を抱える人を支える活動や支える団体への助成を主な目的としていたため、一旦その役割を終ることになりました。しかし、コロナ禍が収束に向かっているからと言っても、困難を抱える人たちがいなくなるわけではありません。

本基金を通じて作られたネットワークを通じ、それぞれの団体が引き続き多くの方々の困難に立ち向かっていきます。基金としての活動は終了しますが、今後もそれぞれの団体の活動へご理解・ご支援を継続していただけましたら幸いです。

ひょうご・みんなで支え合い基金実行委員長
被災地 NGO 協働センター代表
頼政良太

ひょうご・みんなで支え合い基金の活動全般について、現在下記のホームページ内でご報告の準備を進めています。2023 年内を目途に全面的に内容を更新する予定です。
https://hyogo.communityfund.jp/sasaeai/

公益財団法人ひょうごコミュニティ財団
〒650-0022 神戸市中央区元町通 6-7-9 秋毎ビル 3 階
☎ 078-380-3400 ✉hyogo@communityfund.jp